

「軽井沢駅が駅そば発祥の地」調査（その1）

小川達朗（65期）

はじめに

[駅そば発祥の地]についていろいろな説があり、軽井沢駅説が有力とされるものの確かな根拠はなく、紹介される文面には、必ず「諸説があるが・・・」との枕詞がついて詳細は不明となっています。この手の話は、その曖昧さがロマンを醸すこともありますが、発祥の地が軽井沢駅であるなら「そば処信州」としては一つの歴史的財産であり、ハッキリさせたいという思いもありました。



私が「駅そば発祥の地」が軽井沢駅であることの根拠を追ったのは、私の実家が軽井沢でかつて駅そばを販売していた「油屋旅館」の縁戚にあたることによります。実はそのため度々取材を受けることもありましたが、ハッキリした根拠もないことから祖母や両親から聞いていた伝聞程度のもので対応するしかなく、申し訳ない思いでいました。

そのような中、弟の亮夫（69期）がサラリーマンを卒業し東京に戻ったことから、それを契機に一緒に調査を始めることとしました。

以下は、3年前に亮夫がまとめたレポートです。ご一読いただければと思います。

なお、これまでの調査資料を信濃毎日新聞佐久支社に提供したところ、「信毎デジタル」で取り上げていただくとともに、ネットにも掲載いただき反響を得ています。

興味がありましたら「駅そば発祥の地」をネット検索していただけたらと思います。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/bf23a0feb6b31cbd04b5eea27f3396466f1c5ef4>
(2026年1月5日)

駅そば発祥の地調査

小川亮夫（69期）

《軽井沢「油屋旅館」》

さいたま市大宮区にある「鉄道博物館」、ここには鉄道に関する車両、歴史、仕事、科学、未来に分けた多彩な切り口の展示があり、人々と鉄道の繋がりを知ることやシミュレータでの操作体験等が出来ることから多くの人で賑わっている。その一角に「鉄道文化ギャラリー」があり、鉄道に関わる書籍、映画、音楽、絵画から駅弁や駅そばまで鉄道と文化の繋がりを展示している。

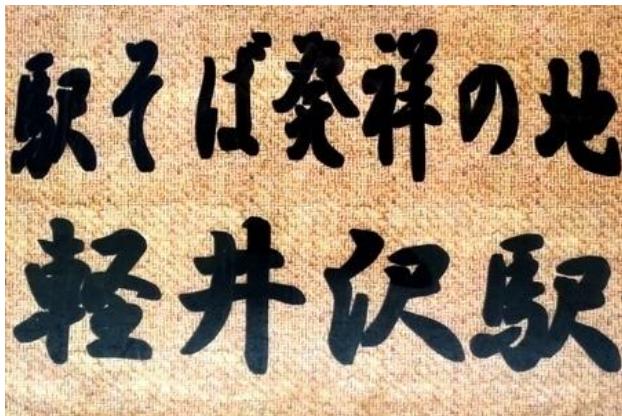
「駅そば」のコーナーには駅そばにまつわる話がQ&Aのようになっていて「駅そばはいつから?」という問い合わせがある。そこには「諸説あり詳細は不明だが、信越本線の軽井沢駅を始まりとする明治30年代説のほか函館本線の森駅や長万部駅が発祥地という説もある」と紹介されている。

軽井沢における駅そばの営業開始時期については、昭和33年5月に社団法人国鉄構内営業中央会が発行した「会員の家族とその沿革」で知ることができる。その記載によると、軽井沢駅での構内営業は明治25年4月1日に内務省所管鉄道庁長官から油屋旅館に許可されたとある。油屋旅館に許可が下りた理由は、「明治25年、碓氷トンネル開通その他鉄道の敷設工事に關し各般の協力熱意を認められて営業の許可を受けた」とあることから旅館業を営んでいた油屋旅館はトンネル工事の期間に食事や休憩、宿泊などで多くの貢献をしたことによるのではないかと考えられる。

また、昭和28年7月16日に油屋旅館が有限会社油屋旅館に法人化した際に更新承認されているが、駅そばについては、「ホーム売店：麺類（そば）と生玉子」の記載のなかに「15平米未

満、創業当初よりの営業で、法人組織に変更した際、ホーム立売と同時に変更承認」とあることから、軽井沢駅での駅そばの営業開始も明治 25 年 4 月 1 日と判断できる（軽井沢での駅そばの始まりは明治 30 年代ではなく明治 20 年代となる）。

油屋旅館における駅そばの販売については「信州の駅弁史」（昭和 54 年 5 月、国鉄構内営業中央会長野支部発行）にも同様の記載があることからその内容は検証がなされたものと考える。



(軽井沢駅の看板)



(大正時代の軽井沢「油屋旅館」、小川達朗君提供)

(2023 年 1 月 15 日 記)

(その 2 に続く)

【参考文献等】

- ・「会員の家族とその沿革」 昭和 33 年 5 月 国鉄構内営業中央会
- ・「日本国有鉄道百年史」 昭和 47 年 10 月 14 日 日本国有鉄道
- ・「国鉄と構内営業（国鉄構内営業 100 年史）」 昭和 47 年 8 月 坂田俊夫
- ・「鐵道一瞥」 大正 10 年 10 月 14 日
- ・「信州の駅弁史（長鉄支部会員の歩み）」 昭和 54 年 5 月
- ・「実用そば辞典」 植原路郎
- ・「北海道駅弁史」 平成 10 年 2 月 20 日 (社)日本鉄道構内営業中央会北海道北区本部
- ・「みちの記」 森鷗外
- ・日経新聞（2016 年 10 月 15 日）
- ・鉄道博物館 鉄道文化ギャラリー

「軽井沢駅が駅そば発祥の地」調査（その2）

小川亮夫（69期）

《調査の開始》

私が「駅そば発祥の地」が軽井沢であることの証拠探しを始めたのは、兄の達朗（65期）からの要請による。

私たちの実家は軽井沢であり、かつて駅そばの販売に関わっていた。兄は幼い時期に祖母や母から聞いていたことを記録に残したい（私は全く覚えていない）との思いがあり、共に関係資料の収集に取り組むことにした。



また、日経新聞（2016.10.15）の以下の記事も契機となった。

【駅そばの発祥はいつか。「北海道の長万部駅や森駅説はあるが、最も古いと言われているのが長野県の軽井沢駅」。2500店以上の駅そばの味を知るという駅そばライターの鈴木弘毅さんはそう話す。今もJR軽井沢駅構内で営業するそば店には、駅そば発祥の地の看板がある。「売り始めたのは旅館を経営する油屋、私の義理の母の小川ヒデです」と話すのは軽井沢町内に住む小川登代子さん（94）。1893年に軽井沢一横川間に鉄道が開通したが、碓氷峠を越えるけん引専用の機関車が必要。車両付け替えの時間が長かった。このため駅のホームで弁当と、そばを丂に盛り売つて回ったという。】

駅そばの元祖について調べ始めた当初、「実用そば辞典」（植原路郎著 東京文献）に鉄道博物館と似通った記載をみつけた。その中では「駅そばの元祖は北海道函館本線の長万部または森駅だと言われている。明治30年代に信越線軽井沢の駅そばが旅行者に親しまれた時と、今日とではまったく性格を異にしている。（中略）アブト式蒸気機関車の時代には、横川と軽井沢とでこの特別機関車を付け替えるため15分間停車であったから、旅客はそれほど慌てる必要はなかった」とあっただけで残念ながら駅そばの発祥の地を決定するには至らない。軽井沢が駅そば発祥の地であることを証明するためには、長万部駅と森駅における駅そばの営業開始時期が明治25年以降であることを証明することが必須となる。

《長万部駅と森駅の調査》

長万部駅における駅そばの創業については、「北海道駅弁史」（平成10年2月20日（社）日本鉄道構内営業中央会北海道北区本部発行）で知ることができた。構内営業の許可を得たのは（有）合田。この会社は大正15年3月に長万部村にそば店を開業。その後、室蘭本線全線開業（明治36年11月）を機に、昭和3年9月に構内営業の許可を得て駅構内にそば店を開業したとのことである。従って長万部駅における駅そばの創業時期は昭和3年となる。駅そばの元祖というには時間的に随分開きがあるよう思うが、長万部駅では昭和6年9月から「折詰もりそば」を考案して、当時全国ではじめての試みであると評価され「折詰そばの元祖」であると人気を得たことから、このことが由来しているのではないかと推察する。

森駅については、「会員の家族とその沿革」によると、阿部商店が明治37年に北海道鉄道株式会社の許可を得てホーム立売とホーム売店を開始している。森駅は函館本線（明治36年6月開通）の主要駅であり、停車時間も多い駅であるため許可された営業であったようである。

《横川駅の調査》

森駅の開業が明治 37 年、長万部駅が昭和 3 年とすると軽井沢駅での開業（明治 25 年）が最も古のことになるが、その時既に構内営業が始まっていた信越本線横川駅についても確認しておきたい。横川駅での構内営業は信越本線の高崎-横川間の開通と同時（明治 18 年 10 月、宇都宮駅に次いで全国 2 番目）で、当時の横川駅は終着駅であったことから旅客サービス上の必要性から荻野屋に許可が下りている。明治 18 年に荻野屋が許可されたのは駅弁の販売のみであったが、明治 26 年の碓氷線開通に伴い長時間の停車駅となったことから構内営業の重要性が増したと考えられ、そのような環境の変化のなかで「横川駅そば」や「峠の釜めし」が誕生していったと考えられる。

《結論：軽井沢駅が発祥の地》

ちなみに軽井沢は明治 21 年 12 月の上田-軽井沢間の開通によって、直江津-軽井沢が全線開通している。横川-軽井沢間のアプト式による開通は明治 26 年となるが、それまでの間は碓氷馬車鉄道会社が鉄道馬車により客貨を輸送していた。終着あるいは始発であった軽井沢駅で油屋は構内ではなかったものの旅の方々に食事（当然そばの提供もあったと考える）や休憩、宿泊などを提供していたようである。これは、森鷗外の「みちの記」に鉄道馬車で碓氷峠を苦労して越え軽井沢で休息を取ったことが以下のように記述されている。明治 23 年 8 月 17 日のことである。

「軽井沢停車場の前にて馬車はつ。恰(アカ)も鈴鐸(レイカ)鳴るおりなりしが、余りの苦しさに直には乗り遷(ウ)ラズ。油屋という家に入りて憩う。信州の鯉はじめて膳に上る、果して何の祥(キザシ)?にや。二時間眠りて、頭やや軽き心地す。」

以上により、森駅の開業は明治 37 年、長万部駅が昭和 3 年、横川駅については明治 26 年以降と考えられることから、「駅そば発祥の地」は明治 25 年開業の軽井沢駅であり油屋旅館がその任にあたったと結論付けたい。

《おわりに》

今回、駅そばの歴史を辿っていくと明治維新以降の日本の産業革命の姿そのものが重なって見えてくる。わずか 20 数年で鉄道を含めた社会インフラが凄まじい勢いで整備され、その周辺に新たな産業が勃興する様に日本人の逞しさや次々に湧き上がるエネルギーといった底力を感ぜずにはいられない。日本人の気質と古くからの教育や文化が相まってのことだと思うが、本当に素晴らしい活力ある日本がそれほど遠くない時代にあったのだと改めて思う。

最近の日本経済の低迷、モラルの低下、多くの人々が夢も希望も諦めたようなムードが席卷している社会が残念でならない。もう一度みんなが生き活きと目を輝かせて生きられるような世の中になってほしいと願うばかりである。

（2023 年 1 月 15 日 記）

以上